

「読書・道しるべ」の道 (最後の挑戦)

.....私は友人(同級生)の死を契機にある決断をしました。残り少ない人生に於いて「やりたいと思っていたこと」を実行に移そうと思ったのです。.....

前々号で私はそう書きました。今回、それを具体的に書きたいと思います。本レポートのテーマである金融・経済、あるいはマーケットとは関係ありませんが、皆様のご協力なくして成り立たない計画です。どうかお目通し下さるよう伏してお願い申し上げます。

4月下旬、私は千葉県庁に行きました。目的は、NPO法人設立の事前相談です。そして、申請書類を準備し6月下旬申請のため再訪したのですが、やはり1回では通らず、一部書類の修正を行い6月30日に申請は受理されました。担当者の説明によると、2カ月(7、8月)の縦覧期間を経て、9月初めにはNPO法人設立の認証が交付されることでした。本レポートを書いている段階(2日朝)ではまだ届いておりませんが、届き次第この認証をもって法人設立登記を行う予定です。

このNPO法人の名が、表題の「読書・道しるべ」です。設立申請で県に出した設立趣旨書には次のように書きました。以下に転記します。

.....近年、高速通信網の整備と共に情報通信機器の飛躍的発展により、多様なメディアが簡単に、しかも安価に入手できるようになっています。これは私達にとって喜ばしいこととすべきでしょうが、しかし皮肉なことに私達は多様なメディアとの接触に限られた時間を消費し益々多忙となっています。

そうした中、読書に傾ける時間が減少する傾向にあることが伝えられています。又、読書においても、電子書籍を含め大量の書籍が流通する中、どんな本を読んだらいいのか判断しにくくなっているのが現実のように思います。

書を読む力は、書く力に繋がり、考える力、想像力の源泉であると考え私達は、こうした状況が果たして好ましい状況なのか疑問を抱いています。そこで、ごく一般の方々から、自らの人生の中で大きな影響を受け、あるいは感銘・感動を受けた書籍・作家名とその時の状況等を投稿して貰い、それをデータベース化し、以て一般市民の読書の道案内となるような読書情報サイト「読書・

道しるべ」をWEB上に公開するののも一つの方法であると考えました。

上記目的を達成するために、既存の出版社や書店、あるいは作家等とも利害関係を有さない中立的な立場で運営するのが望ましいと考え、特定非営利活動法人設立を企図した次第です。.....

何だかその時の気負いが前に出て恥ずかしい限りですが、本音です。今、若者を席卷しているものにモバゲーとグリーがあります。共にゲームを中心としたSNSですが、両者とも登録会員数が2千数百万人と伝えられています。重なっている部分が相当あるにしても、3千万人位がモバゲーやグリーに嵌っているのではないのでしょうか。会員数の増加に伴って両社の業績は正にうなぎ上りです。両社の経営者には敬意を表したいと思いますが、こうした状況をどう捉えればよいのでしょうか。正直、私は危機感を持っています。

以前調べたことですが、原稿用紙1,000枚の長編小説の持つ情報量(単位:バイト)と120分の平均的映画の持つ情報量を比較してみました。その結果は驚くべきものでした。一篇の映画は52,000冊の長編小説とほぼ同じ情報量を有していたのでした。勿論、情報量(バイト)だけで比較するのはおかしいかもしれませんが、この事実はTVやゲームに接する時間が長ければ長いほど、消化仕切れない情報を浴びる時間が長いことを示しています。情報量の少ない本を読むことは、それだけ考え思うことが可能となると思うのです。

いずれにせよ「読書・道しるべ」はスタートします。昨日(1日)、WEBサイトをオープンしました。アドレスは下記の通りです。

<http://www.mybestbook.jp>

アクセスして趣旨にご賛同いただければ、「貴方の選んだ1冊を次世代に伝えます」ので是非ご投稿お願い致します。お知り合いにも伝えていただければ幸いです。

何時だったか、稲盛和夫氏取材の雑誌で「新しき計画の成就是、ただ不屈不撓の一心にあり。さらば、ひたむきにただ想え、気高く、強く、一筋に」という中村天風氏の言葉があることを知りました。私には、不屈不撓の心も、ひたむきに想う力もありませんが、せめて、この言葉の一かけらでも煎じて飲み、この「読書・道しるべ」を続けていきたいと思っています。ご支援、ご協力どうぞ宜しくお願い申し上げます。